

～ 歓迎！冬の野鳥たち ～



相生山の四季を歩く会 2014.11.9

・・・季節性のある温帯林では果実食専門の動物が少ないために、そのようなタイプの樹木は少なく(10～50%)風散布に依存しているものが多い。

とはいえ、たとえばわが国では果実生産がピークとなる秋から冬にかけては、ヒヨドリやメジロに加えて果実食の冬鳥が飛来することもあって、鳥とフルーツの間にはそれなりの良好な適応的關係が維持されているといつてよい。



いつも野鳥の多い稲田口への道

No	場所	これまでに会ったことのある野鳥たち			
1	スタート/ゴール	モズ	ムクドリ	スズメ	ノスリ
2	住宅地近く	ヒヨドリ	シジュウカラ	アカゲラ	コゲラ
3	深い竹やぶ	ヒミツの事件現場			
4	畑跡	メジロ	シジュウカラ	ノスリ	ヒヨドリ
5	森の出口	シロハラ	ヒヨドリ	ジョウビタキ	
6	住宅地	ジョウビタキ	ツグミ	ミヤマホオジロ	
7	谷筋合流点	カケス	コゲラ	アオジ	
8	自然のギャップ	コゲラ	ヒヨドリ	シジュウカラ	メジロ

本日のご注意

1. 車道・人家の近くを歩きます。不安全と迷惑行為の無いように。
2. スズメバチの季節です。忘れないで！私たちが「オジャマ虫」
3. ウルシ類 紅葉きれいでもカブレにご用心ください。
4. くつつきむしの中を歩きます。
5. 雨の秋の森を楽しんでください！

memo

今日出会えた野鳥たち

声を聞けた野鳥たち

鳥が森を作る

動物散布の中でもっとも原始的なのは、種子自体やその殻に粘着物、鉤、棘などがついていて、哺乳類の毛や鳥の羽毛にくっついて運ばれる方法で、草本にはこのタイプが多い。・・・このようなキセル乗車型の動物散布に対して、樹木には果実を切符代わりに動物に提供して種子を散布してもらっているものが多い。

先月のくつつきむし

フルーツ型 & ナッツ型果実

動物側が報酬である果実をどう利用するかによって、さらに二つのタイプがある。一つは動物に果実が実際に食べられて、種子が移動中糞やペリットとして排出されることで散布されるもので、報酬は種子の周りの果肉である。風をあてにできない森林内の低木にはこのタイプの果実を持つものが多く、散布者となる国内の鳥には、留鳥のヒヨドリ・ムクドリ・メジロ、冬鳥のツグミ・シロハラ・キレンジャクなどがいる。

別のタイプは、動物により貯食のために運ばれる果実の一部が途中でこぼれ落ちたり、隠した場所を忘れられたりして、食べ残されることで散布されるものである。この場合の報酬は食べられてしまった他の果実である。ミズナラやブナなどの高木と高山帯のハイマツはそのような果実をつける樹木の代表で、散布者となる鳥には貯食習性を持つカケス・ホシガラス・ヤマガラなどがいる。

ヒヨドリとメジロは森づくりに大きな役割を果たしている

ヒヨドリ

- ・果実をまるごと飲み込むことのできる構造の嘴
- ・昆虫を捕まえるのは下手
- ・種子を傷つけず処理できる消化器⇒どんな果実の種子も無傷で排出発芽可能

メジロ

- ・果実食、花蜜食
- ・果実を丸飲み
- ・無傷の種子排出



果実の大きさの限界は丸飲みできる鳥の嘴のサイズで決まる⇒わが国ではヒヨドリが食べられる大きさ



栄養たっぷりのジューシーな果肉成熟するまでは堅くてまずく、色も目立たないが、成熟すると果肉を包む皮があざやかな赤や黒に。視力と色覚の発達した「空飛ぶ運び屋」においしい食べ物を宣伝。

相生山を代表するフルーツ型果実 = ガマズミ

相生山
緑地創作隊
11月16日
9じ～12じ
自然と人の共生する都市の里山
目指し竹林整備

今月の資料は「鳥たちの森」東海大学出版会 日野輝明(名城大農学部生物環境科学科)著より抜粋、参考に作成しました。

駒山(豊田市旭区)整備 12月6日(土)

山頂(855m)一帯の放置された竹を伐採しブナなどの自然植生の回復を試みています
早朝6:30出発 現地8:30集合
すばらしい自然と人に会えます！

いつでも気軽に山仕事(遊び)

ラプリーアースの人工林～自然林
岐阜県七宗町神淵(名古屋から2.5時間)
たき火・焼き芋・観察・薪割り・玉切り・片づけ
日時不定 (希望者あれば出かけます)

今回は 12月14日(日)
テーマ 今年最後のモミジ狩り
黄・褐・紅の彩りを楽しもう

連絡先(古川)

tell/fax 052-821-6463
TEL 080-5124-6463
e-mail: viva_forest@yahoo.co.jp
ホムパ・ゾ: ラプリーアース → 検索